

# GEOINT2022

## 参加報告

2022年5月1日



葛岡 成樹



COPYRIGHT © 2022 · USGIF

### 目次

概要 .....	2
感想・分析 .....	2
主なプレゼンテーション・議論 .....	3
(1) 米国特殊作戦軍(USSOCOM) 司令官 Richard D. Clarke 大将基調講演 .....	3
(2) 米国国家地理空間情報局(NGA)長官 Robert Sharp 中将基調講演 .....	3
(3) GEOINT FORWARD.....	3
(a) RF モニタリング .....	3
(b) SAR 最新情報 .....	3
展示 .....	3
(1) RF モニタリング .....	3
(2) 衛星間光通信と衛星運用 .....	3
(3) 人工知能/機械学習(AI/ML) .....	3
ちよつと一言 .....	4

## 概要

全米地理空間インテリジェンス財団(The United States Geospatial Intelligence Foundation: USGIF)主催の GEOINT シンポジウムが 2022 年 4 月 24 日(日)~27 日(水)の 4 日間、米国コロラド州デンバー郊外オーロラの the Gaylord Rockies Resort & Convention Center で開催された。今年のテーマは「GEOINT: the Foundation of Intelligence」であった。



GEOINT は防衛・安全保障を中心とする地理空間情報に関するシンポジウムとして世界最大のものである。このシンポジウムは 2004 年から毎年開催されていたものの、COVID のために 2020 年はキャンセルされ、2021 年は開催されたものの筆者が日本から参加することが困難であり、筆者にとっては 3 年ぶりのシンポジウムとなった。

参加者は米国を中心として、防衛・安全保障分野における、地球観測(EO)衛星を含む地理空間インテリジェンス業務関連の官・民・学である。主催者によると出席者は約 4,000 人、展示は 220 社を超えた。また日本からの参加者も官民合わせて 30 人を超え、COVID 後/共存のなかで防衛・安全保障・GEOINT 関連ビジネスがもとに戻りつつあることを強くアピールした。ただし過去に多かった中国からの参加者の姿が見えなくなったのも今年の特徴であろうか。

## 感想・分析

3 年ぶりに参加してみてもロシアのウクライナ侵攻により、GEOINT の世界がまた大きく変わってきたことをまず感じた。筆者が初めて GEOINT に参加したのは 2005 年であるが、この時は商用の地球観測(EO)衛星がハリケーン・カトリーナの災害対応に広く使われてその威力が民間にも知られたタイミングであり、展示も EO 衛星など衛星の話が中心であった。その後 2010 年初頭の防衛予算大幅削減やホームグロウンテロの危険が増したことを受け、EO 衛星の比重がだんだん少なくなりその分地上でのクラウドシステムや Human Geography, さらには Activity Based Intelligence などインテリジェンスの比重が大きくなってきた。

今年は、振り子がまた衛星・センサに振れてきたようだ。ウクライナ侵攻を事前からモニタしていたという報告など GEOINT の成果を誇るとともに、メインテーマにあるようにインテリジェンスの基礎として衛星・センサのトピックが多かった。高分解能光学衛星や SAR 衛星は当たり前として、ことしはまず RF モニタ衛星(電波情報収集衛星)の話があちこちでホットであった。さらにハイパースペクトル衛星や熱赤外衛星など、従来の光学・SAR 以外の情報を収集する衛星・センサの話が花盛りであった。

防衛・安全保障向けのインテリジェントのために地理空間情報をどう使うかという GEOINT にとって、ミッション目的である防衛・安全保障向けインテリジェンスとその手段である衛星・センサとがその年の状況によって振り子のように行ったり来たりするのであろう。

講演は米国インテリジェンスコミュニティ各組織の責任者によるキーノートスピーチが中心である。ただし今年には米国国家地理空間情報局(NGA)長官の講演は当然あったものの、国家偵察局(NRO)、国家情報長官(DNI)も長官ではなく副長官が講演するなど数年前の広範囲な GEOINT から NGA 主体に戻りつつある。

さらにキーノートを中心とし、メインステージでの講演では具体的な説明はほとんどなかった。例えば NRO が民間小型(光学)衛星コンステレーションのデータ購入のために CIBORG (Commercial Initiative to Buy Operationally Responsive GEOINT)というプログラムを立ち上げるとき、DNI が全インテリジェンスコミュニティ向けクラウド中心地上システム ICITE といった新しいコンセプトを打ち出したりしたときは GEOINT のメインステージで詳しい説明があったが、今年はとくに具体的なテーマの説明はなかったようだ。あるいは筆者が聞き逃したか。

## 主なプレゼンテーション・議論

### (1) 米国特殊作戦軍(USSOCOM) 司令官 Richard D. Clarke 大将基調講演

<以下略>

### (2) 米国国家地理空間情報局(NGA)長官 Robert Sharp 中将基調講演

<以下略>

### (3) GEOINT FORWARD

<以下略>

### (a) RF モニタリング

<以下略>

### (b) SAR 最新情報

<以下略>



## 展示

### (1) RF モニタリング

<以下略>

### (2) 衛星間光通信と衛星運用

<以下略>

### (3) 人工知能/機械学習(AI/ML)

<以下略>

## ちょっと一言

今回の GEOINT はデンバー国際空港のそばに数年前にできたリゾートホテルが会場であり、そのすぐに空港ホテルがまとまって建っている場所がある。筆者のホテルもその一軒であり、会場とは GEOINT 専用のシャトルバスで往復できる。ホテルのそばにはコンビニも含めて歩ける距離に店舗・レストランが全くない。ということで今回は初日会場で開催された GEOINT レセプションのほかは連日 5 回同じホテルレストランでの夕食となった。ウェイトレスに顔を覚えてもらったのはともかく、泊ったホテルレストランのメニューのメイン部分を一通り試したことになる。

アメリカのビール&グリルレストランで毎日の夕食となると、結局種類は違ってもハンバーガーかステーキとなる。

チェーン店のハンバーガーとは違って、肉汁がしっかり入りミディアムレ



アに焼かれたパテを挟んだハンバーガーはアメリカならではの食べ物であり、たっぷりのポテトフライ、グリーンチリのスープに地元醸造所のローカルビールにピッタリである。

本報告書へのお問い合わせは：



株式会社 サテライト・ビジネス・ネットワーク

<https://sat-biznet.com/contact-us/>

葛岡 成樹

Euroconsult

ユーロコンサル日本事務所

<https://www.euroconsult-ec.com/contact-us/>

葛岡 成樹